

性感染症による咽頭痛

本康医院 本康宗信・静岡薬剤耐性菌制御チーム
静岡市立清水病院 細菌検査室 土屋 憲

成人の COVID-19 によくみられる所見として咽頭痛、のどの違和感があります。普通感冒でも発熱や咽頭痛は認められますので、症状だけで COVID-19 の診断は難しいところです。2022 年には手足口病、ヘルパンギーナが流行し、成人でも散見されました。手足口病は舌や口唇裏などに、ヘルパンギーナは口蓋垂や口蓋扁桃のあたりに水疱が認められることが多く疼痛を伴います。成人では疼痛部位をある程度、具体的に示すことができますが、小児ではいずれも“喉が痛い”と表現することがあり注意が必要です。

咽頭痛で注意する致命的疾患は、急性喉頭蓋炎、Ludwig angina、扁桃周囲膿瘍、咽後膿瘍、Lemierre 症候群(参照:通報 55)の 5 killer throat が代表的です(表 1)。咽頭発赤がない頸部痛では前出の急性喉頭蓋炎、Lemierre 症候群の他に急性冠症候群、アナフィラキシーショック、椎骨動脈解離、石灰沈着性頸長筋腱炎や亜急性甲状腺炎などが鑑別診断として挙げられます。

表 1 5 killer throat の特徴

疾患	特徴
急性喉頭蓋炎	舌骨部圧痛、tripod position
扁桃周囲膿瘍	口蓋垂偏倚
Ludwig angina	口底部、顎下部の腫脹
咽後膿瘍	頸部可動域制限、小児
Lemierre 症候群	内頸静脈に沿う腫脹・圧痛

こうした咽頭痛の鑑別は、COVID-19 を含めて、主に急性上気道炎を中心とする疾患の中で行われます。診療科によりますが、性感染症で咽頭痛を主訴とする場合にも遭遇します(表 2)。一般内科や耳鼻咽喉科では、咽頭痛で来院される方も多く、患者背景により、性感染症を念頭に置き、婦人科や泌尿器科に受診をお願いすることもあると思います。性感染症による咽頭痛を疑う場合、その背景に commercial sex worker であるか、そうでない場合でも oral sex の有無、不特定多数の方との性的接触の有無、また症状が繰り返し見られるか等を確認します。臨床経過としては、経過が長い場合、また各種抗菌薬の治療に反応していない場合などが、疑うポイントとなります。

表 2 咽頭痛をきたす代表的な性感染症

疾患	起因微生物	診断方法(咽頭擦過)
淋菌性咽頭炎	<i>Neisseria gonorrhoea</i>	核酸増幅法(SDA,TMA), 咽頭培養
クラミジア咽頭炎	<i>Chlamydia trachomatis</i>	核酸増幅法(SDA,TMA)
口腔咽頭梅毒	<i>Treponema pallidum</i>	核酸増幅法(PCR)*
ヘルペス性咽頭炎	<i>Herpes simplex 1,2</i>	抗原検査, 核酸増幅法(PCR)
急性レトロウイルス症候群	HIV	HIV-RNA定量(PCR) [血液検査のみ]
サル痘	<i>monkeypox virus</i>	核酸増幅法(PCR)**

SDA; strand displacement amplification , TMA; transcription-mediated amplification
PCR; polymerase chain reaction

* 保険未収載のため、血清検査での診断が必要

** 最寄りの保健所を經由して国立感染症研究所や地方衛生研究所での検査を実施する

HIV 感染後、1 週から 1 か月の急性期には伝染性単核球症様の症状が見られることがあります (acute retroviral syndrome)。発熱、リンパ節腫脹と時に潰瘍形成を伴う咽頭炎で発症することが多く、HIV 感染に特異的ではありません。抗体が陽性になるまでの期間は、第 4 世代検査では 15~20 日程度で病初期には偽陰性になる可能性があり、この時期の診断には HIV-RNA 定量検査を考慮します。

淋菌性咽頭炎は、軽症からほとんど無症状ですが、播種性淋菌感染症の一部として咽頭炎を生じることがあるので、疑われた場合には、全身の所見に注意する必要があります。淋菌感染症を疑った場合、尿道分泌物のグラム染色は診断に有用ですが、咽頭拭い液の場合には、常在の *Neisseria* 属、*Moraxella catarrhalis* もグラム陰性球菌であるので、臨床状況による判断が必要です。淋菌は他の一般細菌と比較して抵抗力が弱く、かつ増殖力も弱いため、検体採取後直ちに分離培養を行う必要があります。培養検査で淋菌も検出目的であると検査担当者(会社)に情報を頂ければ、選択培地の追加が可能となります。目的菌に“淋菌”の記載をする必要があります。

クラミジア感染症による咽頭炎の原因は、*Chlamydophila pneumoniae* と *Chlamydia trachomatis* の双方の可能性がありますが、*Chlamydia trachomatis* は無症状のことが多いと言われています。

単純ヘルペスウイルスでは歯肉口内炎、咽頭炎をきたすことがあり、疼痛を伴います。性感染症では 80%前後が HSV-2 によりますが、oral sex による感染では HSV-1 の口腔内病変も見られます。梅毒との鑑別は難しく、重複感染もあることを念頭に置きます。

梅毒については、2015 年ごろから急増し、2022 年 10 月、42 週の全国累計値で 10,141 例となり、現在の方法で統計を取り始めた 1999 年以降、初めて年間の感染者が 1 万人を超えました。静岡県でも 42 週で累積 210 例と増加傾向です。梅毒第 2 期になると、全身症状が出現し、咽頭痛、歯肉痛が生じることがあります。口腔内に乳白色の粘膜斑を確認することがあります。軟口蓋のふちに沿って生じた粘膜斑は蝶が羽を広げたようにみえることから、“butterfly appearance”と言われます。この時期には手掌、足底、陰部に皮疹が認められ、診断の助けとなります。

本邦でもサル痘の発生が認められています。多くは MSM(Men who have Sex with Men)を中心とした性感染症です。今回の流行では、発熱、頭痛、リンパ節腫脹などの前駆症状が必ずしも認められず、性器、肛門周囲、口腔粘膜などに皮疹が集中しています。急性喉頭蓋炎の合併も報告されており、咽頭痛にも注意が必要です。

COVID-19 の感染者数は減少傾向にあり、今後はインフルエンザの流行も懸念されますが、咽頭痛でも上記の特徴がある場合には、性感染症も鑑別診断の一つに加えておく必要があるかもしれません。

谷崎隆太郎:ジェネラリストのための性感染症入門 文光堂 2018

具 芳明編:外来で診る感染症 日本医事新報社 2020

青木 眞:レジデントのための感染症診療マニュアル 第 4 版 医学書院 2020